20

株式会社 豊里金属工業

試作板金加工の“駆け込み寺”
品質と短納期、低価格を両立

導入した1，000ｔプレス機

厚さ６mmのハイテン材も絞る

複雑な絞りに技術力

事業内容　試作板金加工
多様な材料と厚みに対応

試作板金加工を中心に多品種少量加工を手がける企業。金型製作を内製し、絞り加工やブランク加工、曲げ加工で高度な品質を実現している。外枠を通常の鉄の積層、内枠をアルミやＳ５５Ｃなどの金型材で構成するハイブリッド金型などの独自技術で、品質の高さと短納期、低価格を両立。同業他社で対応できなかった難易度の高い加工を受けることも多く“駆け込み寺”として業界内での存在感を高めている。

コア技術である板金加工では、鉄やアルミ、ステンレスだけでなく、バネ素材、チタン、銅など多様な金属を対象に、板厚0．025―16mm以上と幅広く対応し、さらに、協力会社と連携することでめっき処理や熱処理、表面加工を含めた2次処理までワンストップで提供している。平成26年には、中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用して高効率加工ができるヤマザキマザック製マシニングセンター「VCS530ＣＬＨ」を導入。複雑形状の金型加工のスピードと精度アップを図っている。

補助事業　1，000ｔプレス機導入
大型家電の試作部品へ参入

複雑な金型加工の効率化の次の戦略として打ち出したのがプレス加工の幅を広げること。今回の補助金では、加圧能力1，000ｔの油圧プレスを真鍋鉄工（株）〈大阪市大正区〉にオーダーメードで発注した。従来設備は加圧能力300ｔ。「周辺企業を見渡しても、これほどの大型プレスを持つ企業はない」と渡辺保社長はその優位性を語る。圧倒的な能力を持つプレス機の導入に踏み切ったことには試作市場の変化がある。

「豊里金属工業」の主要顧客である家電産業は、これまで多数を試作し新製品を生み出してきたが、３Ｄデータで検討を重ねた上で少数を試作する手法に切り替わっている。これまで手がけてきた商品のみを対象にしていれば、自然と受注の数は減少してしまう。このため「豊里金属工業」は1，000ｔプレスを活用し大型家電の試作に参入した。渡辺社長は「従来、家電分野では電子レンジなどの小型板金部品が主だったが、洗濯機など一回り、二回り大きい製品の受注がとれるようになった」と、受注製品の多様化に手応えを感じている。

具体的成果　加圧能力の高さは品質に直結
複雑な絞りをひずみなしで

新プレス機のベッド面は1，300×1，300mm。メリットの１つは大きなサイズの加工品が一度にプレスできることだが、それだけではない。岩水建二専務は「肉を取り合う複雑な絞り加工では、加圧能力の高さが重要」だと言う。例えば70インチテレビのステンレス製バックパネル。加圧能力不足でひずみが残れば、徐々にガラスに負荷がかかり割れにつながることになる。加圧能力が低いと、平面とＲ曲面の切り替わり部もぼけることがある。「絞りで飯を食っているのだから、ぼけた絞りは許されない」。

面積の大きな家電や、板厚の大きな建築金物であっても「しゃきっとした絞りができる」と岩水専務は新プレス機に信頼を置いている。従来の300ｔプレスで数回に分けて絞っていた加工品も一度の加工でできるため、納期のさらなる短縮にもつながっている。新規顧客の開拓と、既存顧客から新たな種類の製品の試作を請け負い、受注は着実に伸びている。加えて、ネット環境を活用することで遠方地との技術打ち合わせも可能になっていることから取引先のエリアも拡大してきた。「出した加工品が営業してくれる」。「豊里金属工業」の実力が口コミで広がりつつある。

今後の戦略　短納期と低コストを海外へ
体制整備に着手

渡辺社長は「展示会でも足を止めてくれる人が増え、加工品を見て『ここまでできるのか』と言われることも」と顔をほころばせる。品質と納期とコストのすべてにおいてレベルアップに挑戦してきた成果が出始めている。しかし挑戦はまだ続く。次の目標は海外対応だという。「豊里金属工業」の顧客には海外に進出している企業も多いが、現状は顧客の日本の拠点を通じて海外拠点へ加工品を送る。このためタイムラグは否めない。

また「タイやベトナムでは試作板金を請け負う企業が極めて少なく、困っている日系企業が多い」という。現在、渡辺社長の指揮のもと、インボイスなど貿易業務に必要な勉強を社員が進め、海外日系顧客と直接やり取りできる環境の整備を進めている。日系メーカーであっても、現地市場向け製品を現地の技術者やデザイナーで開発する動きが増えている。開発はスピードが求められ、当然、試作品も短納期ニーズがある。打ち合わせも加工品のやり取りも海外と直接できれば、「豊里金属工業」の活躍エリアは格段に広がることになる。「顧客が望む納期とコストを海外でも」。渡辺社長は目標を定めて体制整備を加速している。

株式会社 豊里金属工業

代表取締役　渡辺 保

〒533-0013　大阪市東淀川区豊里4−16−24

TEL. 06−6328−9122

FAX. 06−6320−1315

資本金／10，000千円

従業員／14名

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　試作OK　連携力

“最後に行き着くところ”を目指して

代表取締役　**渡辺 保**

試作の課題に対し、粘り強く解決策を探ることには自信があります。より実績を重ね、“難しい加工が最後に行き着くところは豊里”だと言ってもらえる企業になることが目標です。

http://www.toyosatokinzoku.com/

取材を終えて

**半端ではないこだわりの強さ
技術集団のプライド**

加工面の細部をにらみつけるように見ながら「顧客が気にしない部分でも、こだわりたい」と語った岩水専務が印象的。現場では所狭しと並べられた豊富な加工機に最初は目を奪われるが、人の動きに目を転じるとさらに驚きがある。各個人が工程と勘所を頭に入れて作業する姿からは技術集団としてのプライドを感じる。渡辺社長が「“豊里金属”の最大の強みは人材」という言葉を深く納得。